

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
「人と情報のエコシステム」研究開発領域
平成 28 年度採択プロジェクト企画調査事後評価報告書

平成 29 年 4 月 14 日
領域総括 國領二郎

1. 研究代表者：標葉隆馬（成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科 専任講師）

2. 課題名：リアルタイム・テクノロジーアセスメントのための議題共創プラットフォームの試作

3. 期間：平成 28 年 11 月～平成 29 年 3 月

4. プロジェクト企画調査の概要：

本企画調査は、①専門家をはじめとした多様なステークホルダーが参加する議題共創プラットフォームの構築を行い、現代社会に適したリアルタイム・テクノロジーアセスメントのシステム試作、②メディア分析とホライズン・スキャニングを活用した情報技術に関する議題抽出の手法について予備的考察を行うものである。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標達成状況

分子ロボティクスをテーマにすることで萌芽的科学技術の具体例が得られ、情報技術に絞った提案とするというプロジェクト企画調査の目標は概ね達成されたと考えられる。分子ロボティクスの位置づけをできるだけ客観的に捉える上でも、他の対象（ポイントオブケア、自動運転など）の調査を進めることが期待される。

また、Nutshell 設計・メディア分析の試行といった要素についても目標は概ね達成されていると考えられる。一方で、政治化を避けるために Nutshell の議論を必ずしも顕名化しないという考えは一定程度説得的であるものの、その具体的な内実や新しさが必ずしも共有されたとはいいきれない。異分野共同の研究開発においては、そこに参加するステークホルダーは必ずしも同じ文脈や概念の共有がなされているとは限らないことを前提にコミュニケーションを実施していくことが重要であり、今後本プロジェクトを実施していく上でも、その部分のすり合わせを丁寧に実施していくことが期待される。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

分子ロボティクスという具体的な専門分野のインプットが得られたことにより、研究開発プロジェクトの提案としての準備は整いつつあるといえる。今後起こりうる予想される試行錯誤そのものが他分野におけるフィードバックシステムの運用にも適用可能であろうと考えられ、プラットフォームの構築に貢献する提案となることが期待される。

しかし、分子ロボティクスのような特に萌芽的技術の社会的インパクトの予測・評価手法

については、歴史事例の分析やメディア分析に基づく従来のリアルタイムテクノロジーアセスメントの手法だけでは不十分である可能性も考えられる。萌芽的技術については、既存メディアに手がかりとなる議論の萌芽を発見できるかどうか、この部分を再考する必要があると考えられる。また、ホライズンスキヤニングを実施するためには、まず将来の社会像・人間像を検討し、それを前提にどのような影響があるのか明らかにする必要があると考えられるが、そのための手法を考える必要もある。

Nutshell については、将来的に様々な技術開発のプロジェクトが利用できるようなツールに育てていくことが期待される。Nutshell のフィードバック先として、政策担当者、市民、NPOだけでなく、技術開発者自身も入ることが望まれるため、そのためのフィードバックチャンネルについても明示的に検討していく必要があると考えられる。

以上

<別紙：評価者一覧>

	氏名	所属・役職
領域総括	國領 二郎	慶應義塾大学 総合政策学部 教授
領域総括補佐	城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科 教授
領域 アドバイザー	久米 功一	東洋大学経済学部総合政策学科 准教授
	河野 康子	一般社団法人 全国消費者団体連絡会 事務局長・代表理事
	砂田 薫	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 主幹研究員
	土居 範久	慶應義塾大学 名誉教授
	西垣 通	東京経済大学 コミュニケーション学部 教授
	信原 幸弘	東京大学大学院総合文化研究科 教授
	松原 仁	公立ほこだて未来大学 副理事長
	丸山 剛司	中央大学理工学部 特任教授
	村上 文洋	株式会社三菱総合研究所 社会 ICT 事業本部 ICT・メディア戦略グループ 主席研究員
	村上 祐子	東北大学大学院文学研究科 准教授